

第5回福井城址活用検討懇話会

日時：令和4年3月18日（金）10：30～11：45

場所：福井県庁3階 第2委員会室

1. 開会

2. 挨拶（西村座長）

- ・約2年、内部の議論も含めて6回にわたり議論を進めてきて、ようやく全体として取りまとめるタイミングとなった。今日は最終案を確認いただき、これで良いかどうかということを最終的にチェックしていただきたい。
- ・また最後の機会なので、これからの福井城址に関して、それぞれの意見や感想などを委員から発言いただければと思っているのでよろしくお願いいたします。

3. 議事

議事（1）提言書（案）について

事務局から説明。委員の異論なし。

（西村座長）

- ・今後の城址活用の進め方のイメージやアドバイス、本懇話会の感想なども含めて自由に発言いただきたい。

○主な意見

- ・県庁やその周りが人の集まるようになって欲しいと切に思う。ここで言われていることが本当に実現していくなれば本当に人も集まってくると思うが、中途半端に終わることだけはないようにして欲しい。
- ・市民、県民もこの辺りの活用をどうして良いのか分からないと思うので、もっと密に県民や市民に訴えて、この辺りの活用をして欲しい。
- ・歴史遺産としては、お城の価値というところや、それを皆さんに知っていただいて考えていただくということは間違いないと思う。
- ・福井の場合も大きなランドデザインがあるので、様々な方が様々な観点で様々な温度で、自由に何か一瞬でも福井城址に見たり触れたり、そんな風にしていくこと自体が最も大事ではないかと思う。
- ・そうした中で、まず興味を持って、親しみを持っていた中でそれぞれがどういう場所なのか、どういう価値があるのか、どうしていったらいいのかということを考えていくステップが大事だと実感したので、福井城の場合もそんな風に素敵なまちができていって、お城も大事にしてもらえると良いなと思う。
- ・昔「箱モノ」という言葉があり、その時自身はまだ子供だったが、その言葉を聞いていると税金をたくさん使って大したものをつくっていないということを何となく刷り込まれて育ってきた。そういうことにならないようなものを是非つくって、活用し

- て、あってよかったと（いう風に言われるものに）できたら良いなと思う。
- ・福井城だけではなく、若狭では中世のお寺が残っているなど他にも歴史的なものがたくさんあるので、そういうものをまとめて、福井の魅力というものを、お城だけでなく、福井全体としても何かしていただいて、住んでいる方々が「福井ってこんなに良いところなんだよ」という誇りを持って欲しい。
 - ・活用と言うと、文化財の世界では表層的な活用に走りがちで、打ち上げ花火的なことをやれば人が来ると思われがちである。もちろん、それがきっかけにはなると思うが、すぐにそういう風になりがちの中で、提言書の4ページ目にある「活用にあたっては県民の誇りと愛着を育て、県民の城として意識されることが大切」という記載や、提言書のタイトルにもある「県民の城」というところがポイントであり、一番良かったと思っているところである。
 - ・歴史的な大事な資産なので受け継いでいくべきということではなく、提言書の4ページにある「受け継いでいきたくなる」という部分を育てるということが何よりも大事なのかなと思う。そうすることで自然と県民にとって大切なものが受け継がれていく、そういった気運を高めるということがこういった議論をきっかけにもっと広がっていくと良いなという風に感じている。
 - ・特に、この懇話会には若い学生の委員が入っていたことが非常に良いと思う。非常に率直な意見を述べてくださり、そういった視点が入ってくることが大事だと思う。また、景山委員から表紙のデザインが大事だということで、デザインの視点も取り込めたのではないかと思う。
 - ・福井県と石川県では歴史的な流れが全く違う。特に、江戸時代の初めから終わりまで前田家がほぼ100万石で継続して所有していた金沢とは異なり、越前は大変変遷があったところで、68万石は幕末には32万石になり、支藩ができたり、それがまた合併したり、改易があったりと色々な変遷をした中で、色々な藩領が生まれていった。天領があり、武家領もあり、社寺領もあり、大変複雑な中で福井城があったため、中々1つにまとまらず、それが人々の中にも意識があるということを申し上げた。その中で福井城址の復元活用をどうすれば良いのかということ考えた時に、県民の皆さんが参加できるような整備、参加できるような城にならないか考えた。
 - ・今回、タイトルに「県民の城」と表記していただいたのは大変光栄であり、意見が反映されたものだと感謝している。県民の皆さんが将来に向けて若い人を中心に親しまれ、愛される城址となることを祈念している。
 - ・提言書はソフトという点ではまだスタートにも立てておらず、ハードについてもここがスタートだということが決まった感じのかなと思っている。恐らく様々な意見が2040年までに出てくると思うが、そこを上手くブレずに様々な県民の声をもらいながら、デザインという視点でも少しずつ伴走ができると良いなと思っている。
 - ・県庁の今の風通しの良さはとても感じているので、今後とも皆さんと上手く関わりながら良い「県民の城」を築いていけたらなと思っている。
 - ・中長期的には県民の気運の高まりをもとにまちづくりが進められていくということであり、短期的な活動として知る機会や場の提供、議論する場をつくるということ

で、若い人が福井城址のことをほとんど知らないといった現状で、そういう人たちにとっても、将来的に福井のまちづくりに関われるということで将来どうなるのか楽しみだなというのが率直な感想である。

- ・意見交換会の中で、福井駅周辺でこういう方向性でやろうとしている、ということを行行政の人が伝えて、学生側からこうなると良いという意見を聞くことができたのはとても良かったと思う。最終案にあるとおり、議論する場を設けるということなので、その場に若い人たちを含めた県民の皆さんを巻き込みながら進めていただけたら良いと思う。
- ・提言書16ページの最後のパースが良いなと感じており、つくるのではなくてつくらないということ、建築は長いスパンを持って造られるからこそ深みが増すと思う。何もないからこそ県民がじっくりと考えて良いものができると思うし、その中で建築は時代のキャッチーなものをつくるというよりは、伝統的な建築のような普遍的なもののほうが飽きないし県民にも愛されていくものになると思うので、つくるのであればそういった普遍的なものがあれば良いかなと思った。
- ・歴史を偲ぶ空間や人々が集い開かれた空間というものがエリアにつくられる中で、つくるだけではなく、どうすればやりやすいか、何か使ってみたいという時に補助線みたいなものが非常に重要になってくるのではないか。
- ・デザイン的な部分をしっかりすれば、そこから歴史があり素晴らしい福井ということが県民に理解され、そこからここに残りたいということやもっと良くしていきたいということになると思うので、小さなステップから福井の未来に対して一步を踏み出せるものになったのかなと思う。

○総括（西村座長）

- ・本提言書においては、この建物（県庁舎）のその先については、長期と言っても耐用年数もあるので、言及を少し控えている。しかし、その間でもやれることはいくらかもあり、特に、中央公園との関連の中で色々できると思っている。
- ・また、お堀や石垣がよく残っているということが一番大事なので、そこをうまく大事にするような計画、それは部分的には櫓の復元もあるかも知れないが、そういった方向性については合意できたのではないか。
- ・その後、超長期については、いくつかの方向性の中で、あまり大きなものを建てる方向性ではないような形が全体としての合意だということで書いてある。20年も先になると何が起こるか分からない。それぐらい変わるとすると、その時に何がやれるかということはその時にならないと決められないので、ここで大きな方向性を見せられている。
- ・それと同時に、先ほどから委員の意見にあったように、議論をここで深めていく非常に良いチャンスになるのではないか。「県民の城」とタイトルにあるように、どうしようかという議論はずっとこれからやれるわけなので、どんどん意識が高まっていくし、ここに注目が集まり、だんだん（県庁舎の）耐用年数が近づくにつれて盛り上がっていくだろうと思う。
- ・そういうことが続いていって、皆がここに關心を持って議論が続くということが大

事なので、そういう仕掛けの中にこの提言書がしっかりと位置付けられるということになると思う。

- ・都心部を少しずつ変えながらも、この中で色々なことを実現させてきたというのは福井の個性だと思う。その意味では、コンパクトな大きな施設をここに持ち続けているというのは重要なことである。大体は郊外に出てしまっている。
- ・その強みみたいなものを、今後の将来的な取組みの中でも、県庁は上手く都心のどこかに行ってもらって、ここが別の形で県民が集える城になるとまた新しい都市づくりのコンセプトの中で蓄積することができると思うので、次のステップとしてこれがこのまちのあり方なのだと胸を張って言えることにつながる提言にしてもらいたい。今後も実現に向けて動いてもらいたい。

○挨拶（事務局）

- ・この1年半にわたり、大変お世話になり、色々なご意見を賜りながら、どうしようかと思ひながら、やっとの思いで着地したかなというのが正直な気持ちである。
- ・私も色々と委員の皆様から話を聞いていて、我々がこの懇話会を立ち上げて議論しようとしたときに「福井城址活用検討懇話会」という名前でスタートしたということで、今ある城址がどう変わるのか、どういう結論に持っていくかということを経務局としても悩みながら色々と考えてきたところである。
- ・前回もしくは前々回の懇話会の時に気付いたことだが、座長からも石垣と堀が大事だという話があり、確かに今あるものから何をしようと考えていたところが反省点であり、やはり今あるところをベースとしてしっかりと活用する、その上で県民の皆さんの気運を高めていき、さらなる活用というものがあるということを経務局の中で強く感じたところである。
- ・復元は、ある程度時間をかけて、気運を高めながらどのように活用していくかという段階的なアプローチが大事である。そういう意味では、新年度の予算としてフォーラムの開催費を持たせていただいて、施設の設計、整備ということではなく、まずフォーラムにより、皆さんの気運を高めるということをきちんとやっていこうということで進めていきたいと思っている。
- ・新幹線も2年後ということでも色々な準備を進めているところであり、再開発ビルも建設中である。それに向けて既存の商店街をどうするかという点については、リノベーションでいこうというようにまちづくりの方も進んでいる。
- ・北側になると福井城址の話があり、今回ご提言にいただいた歴史の資源としてきちんと確保しながら、県民との対話を通じてどのように活かしていくのかといったアプローチで進めていきたいと思う。1年半ご議論いただいたことであるので、我々も重く受け止めてこの方向に沿った形で進めていくということでもやっていきたいと思っている。
- ・新幹線の開業ということであれば、県民だけでなく、観光客も福井城址を見る機会が出てくる。来られた方が「福井城址って良いよね」と言うと福井も自信が出てくるというところもあるので、ある程度こういったところの好循環も得ながら、県民の福井城に関する関心が高まっていくと良いかなと思っている。

- ・いただいた提言は、その中に、まちなかの一つの重要な拠点として城址周辺を位置付けて、全体として福井のまちなかがコンパクトなまちとしてさらに賑わい、発展していくような観点からも整合性をもって進めていきたいと思っている。1年半のご検討に感謝申し上げます。

4. 閉会